

はじめに

令和5年4月18日、文部科学省により全国学力・学習状況調査が実施され、本市も昨年度に引き続き参加いたしました。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことです。

名古屋市教育委員会では、文部科学省から送付されました本調査の結果を基に、本年度の名古屋市の児童・生徒の学習状況及び生活実態を分析し、課題の把握に努めました。

本報告書では、各教科別調査については、過去3年間の調査結果を比較したり、領域別に分析したりして、明らかになった課題に対し、各領域における、授業に役立つ具体的な指導上の改善ポイント例を、国語は樺山敏郎氏（大妻女子大学教授、元文部科学省国立教育政策研究所学力調査官〔兼〕教育課程調査官）・本橋幸康氏（埼玉大学准教授）、算数・数学は大橋明氏（教育調査研究所研究部長）、英語は石塚博規氏（北海道教育大学名誉教授）の監修の下、作成いたしました。本市の課題である国語科につきましては、教科書教材を基に作成した授業で使える問題を掲載しております。

質問紙調査については、結果から見えてくる課題に対して、指導上の改善の視点を掲載いたしました。

各教科や質問紙の調査において、過去の課題と共通する部分もありますので、過去の報告書（平成19～21、25～31、令和3・4）に記載されている改善策も参考にしてください。各学校におかれましては、本報告書を活用し、児童生徒の学力の向上と生活習慣の改善に一層ご尽力いただきますようお願いいたします。

令和5年11月

名古屋市教育委員会

目 次

はじめに

目次

第1章 令和5年度 全国学力・学習状況調査における名古屋市の概要

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 2
- (2) 調査の対象学年 2
- (3) 調査の内容 2
- (4) 調査日 2
- (5) 調査に参加した学校数、児童・生徒数 2

2 各教科に関する調査結果概要（公立）

3 児童・生徒質問紙調査結果の概要と本市の傾向

- (1) 児童・生徒質問紙調査結果の概要 3
- (2) 本市の傾向 4

第2章 教科別調査結果の概要及び指導上の改善ポイント

1 教科別調査結果の概要

- (1) 小学校「国語」..... 6
- (2) 中学校「国語」..... 9
- (3) 小学校「算数」..... 12
- (4) 中学校「数学」..... 15
- (5) 中学校「英語」..... 18

2 指導上の改善ポイント（国語）「授業で使えるワークシート」含む 21

3 指導上の改善ポイント（算数・数学） 49

4 指導上の改善ポイント（英語） 58

第3章 質問紙調査結果の概要及び指導上の改善の視点

1 児童・生徒質問紙調査結果の概要

- (1) 児童・生徒質問紙調査の内容と調査結果のまとめ方 64
- (2) 調査結果の概要 64

2 学校質問紙調査結果の概要

- (1) 学校質問紙調査の内容と調査結果のまとめ方 75
- (2) 調査結果の概要 75

3 指導上の改善の視点

- (1) 生活習慣・家庭学習について 85
- (2) 自尊感情等について 85
- (3) 地域・社会との関わりについて 86
- (4) 主体的・対話的で深い学びについて 86
- (5) 大切にしたい視点 87
- (6) 児童生徒の学力向上に向けて家庭・学校が果たす役割 87
- (7) 指導上の改善にかかわるチェックポイント 88

第 1 章

令和 5 年度 全国学力・学習状況調査における名古屋市の概要

第1章 令和5年度 全国学力・学習状況調査における名古屋市の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

- 小学校第6学年及び中学校第3学年

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

② 生活習慣や学習環境に関する調査（質問紙調査）

児童・生徒：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学 校：指導方法に関する取組や、人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日

令和5年4月18日（火）

(5) 調査に参加した学校数、児童・生徒数

校 種	学校数	児童・生徒数（※）
小学校	261校	17,244人
中学校	110校	15,556人

※ 児童・生徒数は、4月18日に実施した教科に関する調査のうち回収した解答（回答）用紙が最も多かったもの

2 各教科に関する調査結果概要（公立）

校 種	教科	問題数	正答率		正答数	
			本市	全国	本市	全国
小学校	国語	14	65	67.2	9.1	9.4
	算数	16	62	62.5	9.9	10.0
中学校	国語	15	70	69.8	10.4	10.5
	数学	15	55	51.0	8.2	7.6
	英語	17	51	45.6	8.6	7.7

※ 平均正答率は、文部科学省公表数値（都道府県・指定都市は小数点以下第1位を四捨五入した数値）による

3 児童・生徒質問紙調査結果の概要と本市の傾向

(1) 児童・生徒質問紙調査結果の概要

児童・生徒質問紙項目		小学校		中学校	
		本市	全国	本市	全国
①生活習慣・家庭学習	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.0	81.0	75.4	78.0
	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	70.2	70.7	57.5	55.0
②自尊感情・正義感等	自分には、よいところがあると思いますか	85.2	83.5	82.1	80.0
	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.2	91.0	89.9	86.8
	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.6	91.6	90.8	88.1
③地域・社会との関わり	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	78.9	76.8	60.9	63.9
④主体的・対話的で深い学び	5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.6	78.8	77.3	79.2
	5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	70.1	63.7	71.5	62.1
	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	82.9	81.8	79.5	79.7

(2) 本市の傾向

① 生活習慣・家庭学習

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に対して、小学校では80.0%の児童、中学校では75.4%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。児童・生徒ともに、全国よりやや低い結果であった。

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して、小学校では70.2%の児童、中学校では57.5%の生徒が「よくしている」「ときどきしている」と答えている。小学生は全国と同程度で、中学生は全国よりやや高い結果であった。

② 自尊感情・正義感等

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して、小学校では85.2%の児童、中学校では82.1%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。児童・生徒ともに、全国よりやや高い結果であった。

「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対して、小学校では93.6%の児童、中学校では90.8%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。児童・生徒ともに、全国よりやや高い結果であった。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対して、小学校では92.2%の児童、中学校では89.9%の生徒が「よくある」「ときどきある」と答えている。小学生・中学生ともに、全国よりやや高い結果であった。

③ 地域・社会との関わり

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、小学校では78.9%の児童、中学校では60.9%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。小学生は全国よりやや高く、中学生は全国よりやや低い結果であった。

④ 主体的・対話的で深い学び

「5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に対して、小学校では79.6%の児童、中学校では77.3%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。小学生は全国と同程度、中学生は全国よりやや低い結果であった。

「5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと思いますか」という質問に対して、小学校では70.1%の児童、中学校では71.5%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。小学生は全国より高く、中学生は全国より非常に高い結果となった。

「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、小学校では82.9%の児童、中学校では79.5%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている。小学生、中学生ともに全国と同程度の結果であった。